

府中市市民協働推進行動計画(平成30年度～令和3年度) 進行管理シート

No	推進方策・目標・施策	主管課	関係課	事業内容	計画										進捗状況														
					H30					R1					R2					R3					4年間(H30～R3)の総括				
					R1	R2	R3	進捗状況	実績	課題	次年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R2年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R3年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	備考	評価	評価の根拠	R4以降継続していく取組や将来的な考え			
推進方策1 市民の協働に対する意識の醸成																													
目標(1) 市民協働に関する効果的な啓発・PR活動の推進																													
1	市民協働推進シンポジウムの開催	協働推進課		市民協働の理念や市の取組について、広く市民にお知らせするとともに、今後の取組や活動につなぐことができるよう、シンポジウムを開催します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	市民協働推進月間に合わせ、市民活動センターにおいて、産業能率大学経営学部教授の中島氏による基調講演と、「福祉」「まちづくり」「青少年」と異なる分野で活動されている3名の府中市民をパネリストとして迎え、中島氏によるパネルディスカッションを実施した。また、シンポジウム終了後、登壇者と希望者による懇親会を実施した。	登壇者の確定が遅れ、広報活動のスケジュールに影響した。パネリストの事前打ち合わせが十分ではなかった。	参加対象者に合わせた開催ができるよう、早めに会場を確保する。また、連絡を密に取り合い、内容についての協議、登壇者へのアプローチを早めに開始し、スムーズに広報活動を行う。	計画通りに進んでいる	市民協働推進月間に合わせ、市民活動センターにおいて、認定NPO法人サービスクラント代表理事の嵯峨氏による基調講演を実施した。また、地域で活動されている2名の団体代表者より事例紹介をしていただき、パネリストとして迎え、市民活動センター館長吉田氏、嵯峨氏によるパネルディスカッションを実施した。また、シンポジウム終了後、登壇者と希望者による懇親会を実施した。	【参加者数】137名 【参加者満足度】講演79%、パネリストディスカッション83%	より多くの市民に参加いただけるよう、シンポジウムの開催形式を見直すとともに、周知を強化する。	計画通りに進んでいる	市民協働推進月間に合わせ、市民活動センター及びオンラインにて、2部制で実施した。第1部は、NPOの法人サービスクラント代表理事の清輔氏による基調講演を実施。第2部では、地域で活動されている3団体(FC東京府中、60ボッチャクラブ、バンク府中)より事例紹介をしていただき、パネリストとして迎え、ワークショップを実施した。	【参加者数】会場5名、YouTube再生回数130回(当日19時時点) 【参加者満足度】83.5点 【参加者数】Zoom9名 【参加者満足度】83.1点	コロナ禍のため、会場とオンラインとの併用開催を初めて試みたが、第1部については、シンポジウム開催後もYouTubeに公開したことで、シンポジウム当日以外にも視聴できる機会を提供できた(12/24時点 再生回数220回)。来年度も引き続き同様の手法を検討する。市民協働まつりと同時開催のため、シンポジウムがまじりのプログラムの一つとして捉えられた側面が強く、シンポジウムの周知が効果的に行き届かなかった。来年度は、まつりとは別の日に、シンポジウム単体で開催する。	市民協働推進月間に合わせ、市民活動センターにおいて、公益財団法人日本野鳥の会職員でありコロジストの箱田氏による基調講演を実施した。また、イラストレーターのかわさき氏、つなぎすと府中の西郷氏をパネリストとして迎え、パネルディスカッションを実施した。	【参加者数】会場54名、オンライン視聴予約39名、YouTube再生回数27回再生(2022年9月1日現在)、手書き後日配信申込73名 【参加者満足度】83%	-今年度の市民協働推進シンポジウムは、感染症が収まりつつある状況もあり、会場開催を主軸とし、YouTubeライブ配信との併用で行った。YouTubeはアーカイブとして残すことで多くの方に見ていただくことができた。さらに、合理的配慮として希望者に対して、手書き後日配信を実施したところ、73人からの応募があった。たくさんの方に見ていただくために、来年度も引き続き開催方法について検討していく。	A: 計画以上に達成することができた	市政世論調査における協働の認知度は、この4年間で、48.3%から57.1%へと上昇し、目標値の50%を上回った。	引き続き、広く市民に市民協働について知ってもらう啓発活動の1つとして効果的な内容や開催方法を検討し、実施していく。				
2	市民協働出前講座の実施	協働推進課	文化生涯学習課	市民や各活動団体等の要請に応じ、市が目指す市民協働の理念や取組状況等について、市職員が講師となって情報提供を行う出前講座を積極的に実施します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	提案型協働事業のPRチラシへの掲載や協働に関する事業等について、市職員が講師となって情報提供を行う出前講座を積極的に実施します。	取組の認知度の向上。	引き続き、出前講座自体の活用状況を把握するとともに、提案型協働事業のPRチラシへの掲載や協働に関する事業のほかに他課に働きかけを行うなど積極的に周知を図る。	計画通りに進んでいる	提案型協働事業のPRチラシへの掲載や協働に関する事業のほかに他課に働きかけを行うなど積極的に周知を図る。	【講座要請数】0回	引き続き、出前講座自体の活用状況を把握するとともに、提案型協働事業のPRチラシへの掲載や協働に関する事業のほかに他課に働きかけを行うなど積極的に周知を図る。	計画通りに進んでいる	提案型協働事業のPRチラシへの掲載や協働に関する事業等について、市職員が講師となって情報提供を行う出前講座を積極的に実施します。	【講座要請数】0回	引き続き、出前講座自体の活用状況を把握するとともに、提案型協働事業のPRチラシへの掲載や協働に関する事業のほかに他課に働きかけを行うなど積極的に周知を図る。	計画通りに進んでいる	提案型協働事業のPRチラシへの掲載や協働に関する事業等について、市職員が講師となって情報提供を行う出前講座を積極的に実施します。	【講座要請数】0回	B: 計画通り達成することができた	市政世論調査における協働の認知度は、この4年間で、48.3%から57.1%へと上昇し、目標値の50%を上回った。	出前講座について引き続き周知するとともに、その他の啓発事業を含め、効果的な啓発方法を検討していく。				
3	協働事例集の作成	協働推進課	関係課	市内の各活動団体等の様々な協働事例から、ノウハウや成果等を学ぶとともに、実務の手引にもなる事例集を作成します。	発行	発行	発行	計画通りに進んでいる	ブラッツのHP・SNS等で協働の事例を少しずつ紹介していった。	紙媒体の更新に向け、事例のストックと取材や編集に協力してもらえる人材の育成について検討。	計画通りに進んでいる	ブラッツのHP・SNS等で協働の事例を少しずつ紹介していった。	ブラッツのHP・SNS等で協働の事例をまとめて見ることができるよう、一覧ページの作成を検討する。	計画通りに進んでいる	ブラッツのHP・SNS等で協働の事例を紹介しつつ、その特設ページをR3に作成するために、HPのサイトマップおよび掲載形式を検討した。	ブラッツHP内に「協働の事例紹介コーナー」を設け、既掲載記事や情報を中心にページを構成できるように、情報を整理する。	計画通りに進んでいる	ブラッツHP内に「府中で広がる協働の事例紹介」のページを設け、様々な主体同士が協働の取組事例を随時紹介している。	B: 計画通り達成することができた	ブラッツHPに、事例紹介ページを作成し、随時事例を掲載している。	今後引き続き事例紹介ページを充実させていくとともに、ブラッツや協働共創推進課のSNS等でも事例を発信していく。								
目標(2) 新たに協働に取り組もうとする市民への参加の機会の提供																													
4	市民活動・協働に関する入門講座の実施	協働推進課		これまで、意欲はあっても公益的な活動や協働事業に参加する機会がなかった市民や、これらの取組に参加したいという意欲のある若い世代を対象とした講座や講演会などを開催します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	①入門講座2クール開催。はじめての市民活動入門編(全5回)/50から始めるまち活動(全4回)修了生が市民活動団体を作り活動開始。 ②講演会は、1周年企画として「川島成道後援会&ミニヴァイオリンコンサート」を開催した。 ③無関心層の引き上げの為に「入門講座や講演会に参加する以前に、ブラッツとカフェ」を開催。8回	①入門講座はシニアの参加をどう促すが課題。 ②講演会は、引き続き様々なテーマを出して、が課題。 ③活動に興味を持ってくれる方はいるが、その場自体がさらに気軽に、おしゃべりでき、課題を持ち寄れる雰囲気づくり。	①入門講座修了生のグループ化の支援と、同様の連続講座を引き続き実施する。 ②多様なテーマで複数回の開催。 ③ミニ講演会にならないよう、参加者が自分を出せる雰囲気づくりに留意しながら継続。	計画通りに進んでいる	①子育て世代向け講座(5～6月開催)全5回。集客に課題は残したが満足度は非常に高く、受講生の内2人が修了後、後援会として自分自身のスキル(音楽)を活かした活動を始め、 ②シニア向け講座全4回。受講生3名。修了後、後援会として自分自身のスキルを活かしてのライフシフトの提案講座。最終「活動への決意表明」は、コロナの影響による自らのため、次年度への無形支援として、継続したサポートを続ける。 ③実践ボランティア活動講座(絵本ボランティア)2回開催。講座終了後、事務局から、ボランティアの実践の呼びかけをしたところ、継続的なボランティアが生まれた。 ④講演会「〜講演会4回」も引き続き実施する。4月「セカンドキャリアを考える」内多摩川(10月)「奥多摩川とカササギを考える」(11月)「中口が飛んでくれた人と犬が共存する社会」(大木トオル)(12月)	①集客の伸びが見込めないため、受講生ターゲットを、属性性別でなく、目的別にし、より、目的別に「ライター養成講座」を実施する。ライティングというスキルを身につけると同時に、取材などを通じて市民活動に興味を持ってもらうことを目的とする。修了後はkokokoの専任ライターなどとして活躍してもらおう予定。 ②は、力を入れていきたいシニア層の層の厚い。継続、タイトル、講座内容の層のブラッシュアップを図る。 ③コロナで中断してしまったため、まずは活動の再開と、自立した団体の立ち上げ支援をサポートしていく。 ④5/6/7 講座はテーマ別にすることで、熱心な参加者が多く、それぞれの活動意欲を喚起する働きかけができた。	計画通りに進んでいる	①市民ライター養成講座。修了生が市内各団体をインタビューした冊子作成。 ②シニア向けオンライン活用講座。緊急事態宣言により開催中止。 ③受講生の講座後の活躍を確認できたので、時宜にあったサポートを続けていく。 ④講演会「コロナ禍から見直した！芽を出す、ツナゲル、広げる活動」「生産、楽しむ」を考えた。	①KOKOKOの記事作成など、ライターとしての実践を促す。 ②何らかの形で3年度にシニア向けオンライン講座を開催する。 ③受講生の講座後の活躍を確認できたので、時宜にあったサポートを続けていく。 ④コロナ禍の終息の予測を立てつつ、その後の新しい生活、活動を考えるヒントとなるような企画を検討する。	計画通りに進んでいる	①オンラインサポーター養成講座～あなたのスキルを生かして社会貢献。②フリーペーパーライター講座。フリーペーパーへのスキルを身に付けて、自分の持っている力を地域貢献に生かす術を得る。③府中コロジスト養成講座「コロジスト」をキーワードとして、身近な地域発見から、市民活動、市民協働への道筋を具体的にイメージし、一歩踏み出すきっかけとする。	B: 計画通り達成することができた	初期の入門講座では、地域の課題を掘り下げ、それに対する自分のアプローチを考える講座とした。いずれの講座からも、市民活動の第一歩を踏み出す人材が生まれている。R2年度からは、徐々に実学的な講座も必要と判断し、ライター講座をはじめ様々な講座もこれからの講座の修了生は市民ライター、オンラインサポーターとして直ちに活動をはじめたり、自分たちのグループの立ち上げを検討したりとそれぞれ積極的に活動している。	これまでと同様時宜をとらえ「市民活動のきっかけづくり」を継続していく。また、コロナ禍で他人とのかわりに不安を持つ若者世代に有効なアプローチを検討、実施していく。							

府中市市民協働推進行動計画(平成30年度～令和3年度) 進行管理シート

No	推進方策・目標・施策	主管課	関係課	事業内容	計画										進捗状況														
					H30					R1					R2					R3					4年間(H30～R3)の総括				
					R1	R2	R3	進捗状況	実績	課題	次年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R2年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R3年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	備考	進捗状況	実績	備考	評価	評価の根拠	R4以降継続していく取組や将来的な考え
5	次代の協働の担い手の育成に向けた各種事業の実施	指導室	地域コミュニティ課	地域に愛着を持ち、積極的に地域活動や協働のまちづくりに取り組む将来の人材を育成するため、児童・生徒等の子どもたちが地域とつながりを深めることができる事業を実施します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	地域に愛着を持ち、積極的に地域活動や協働のまちづくりに取り組む将来の人材等を育成するため、児童・生徒等の子どもたちが地域とつながりを深めることができる事業を実施することができた。	引き続き、児童・生徒等の子どもたちが地域とつながりを深めることについての研究等を行い、事業推進することが課題である。	引き続き事業を実施する。			計画通りに進んでいる	地域に愛着を持ち、積極的に地域活動や協働のまちづくりに取り組む将来の人材等を育成するため、児童・生徒等の子どもたちが地域とつながりを深めることができる事業を実施することができた。	引き続き、児童・生徒等の子どもたちが地域とつながりを深めることについての研究等を行い、事業を推進する。			計画通りに進んでいる	地域に愛着を持ち、積極的に地域活動や協働のまちづくりに取り組む将来の人材等を育成するため、市内の素材を教材化した副読本を用いて授業を実施したり、地域の教材と連携した授業を実施した。	引き続き、児童・生徒が地域とつながりを深めることについての研究等を行い、事業を推進する。			計画通りに進んでいる	地域に愛着を持ち、積極的に地域活動や協働のまちづくりに取り組む将来の人材等を育成するため、市内の素材を教材化した副読本を用いて授業を実施したり、地域の教材と連携した授業を実施した。	引き続き、児童・生徒が地域とつながりを深めることについての研究等を行い、事業を推進する。	B:計画通り達成することができた	府中市に関する素材を教材化した社会科副読本(小学生用「わたしたちの府中」・中学生用「郷土府中」)を作成し、継続的な地域学習を実施している。また、総合的な学習の時間等において、地域の教材を講師として招聘するなど、地域と連携した教育活動を実施し、地域とのつながりを深めている。	社会科副読本を活用した授業の実施や、教育活動における地域人材の活用等、地域学習を引き続き実施するとともに、児童・生徒が地域とつながりを深めることができる方策を研究していく。また、オリンピック・パラリンピック教育において発展させてきた活動を「ふるさと学習等」の取組を「未来へつなぐ府中2020レガシー教育」と位置づけ、府中の自然や文化、人的資源を活用し、家庭や地域等と連携した教育活動を各学校の特色としてこれからも継続していく。
		児童青少年課		地域に愛着を持ち、積極的に地域活動や協働のまちづくりに取り組む将来の人材を育成するため、児童・生徒等の子どもたちが地域とつながりを深めることができる事業を実施します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	NPO法人や地域のボランティアと協力しながら、放課後子ども教室事業や青少年健全育成に繋がる様々なイベントや啓発活動を実施し、地域と子どもたちとのつながりを深めることができた。	引き続き、NPO法人や地域のボランティアと協力し、相互の能力を生かした青少年健全育成事業を進めていく。			計画通りに進んでいる	NPO法人や地域のボランティアと協力しながら、放課後子ども教室事業や青少年健全育成に繋がる様々なイベントや啓発活動を実施し、地域と子どもたちとのつながりを深めることができた。	引き続き、NPO法人や地域のボランティアと協力し、相互の能力を生かした青少年健全育成事業を進めていく。			計画通りに進んでいる	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年実施しているイベントや活動は大きく制限されたが、放課後子ども教室事業や青少年健全育成に繋がるNPO法人や地域のボランティアと協力しながら、今後の事業の継続に向けた調整を行った。	コロナ禍における事業および地域のつながりを継続していくため、NPO法人や地域のボランティアと協力を、昨年度と比較し、企画等にオンラインを活用し青少年健全育成に繋がる地域のボランティアと協力を検討し工夫をしながら青少年健全育成事業を進めていく。			計画通りに進んでいる	令和2年度に引き続き新型コロナウイルスの影響でイベントの中止や変更等があったが、昨年度と比較し、企画等にオンラインを活用し青少年健全育成に繋がる地域のボランティアと協力を検討し工夫をしながら青少年健全育成事業を進めていく。	引き続きNPO法人や地域のボランティアと情報交換を行いながら様々なイベントや啓発活動を実施していく。今後もボランティア団体との協働が継続していくよう推進していく。	B:計画通り達成することができた	新型コロナウイルスの影響があったが、NPO法人や地域のボランティアと情報交換を行いながら様々なイベントや啓発活動を実施していく。今後もボランティア団体との協働が継続していくよう推進していく。		
目標(3)地域を支える各リーダーに対する啓発・情報提供																													
6	専門講座の実施	協働推進課		各活動団体のうち、特に地域活動団体及び目的型活動団体のリーダーを対象に組織基盤を強化するとともに、協働に関する学習会等を実施します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	専門講座の開催12回開催 「これからのNPO・市民活動を一瞥に考えよう」11名 「団体・組織の運営スキルを学ぶ」16名 「伝えたいが伝わる」17名 「ボランティアの役割」27名 「助成金を獲得する方法」12名 「助成金を活用する7つの方法」15名 「人が集まるオンラインのノウハウ」35名 「専業主婦を支援する」27名 「マーケティングに効果的なホームページ活用講座」27名 「団体のための情報発信講座」1団体でPR映像を作ろう！～iPadで作る映画製作から～」11名 「団体でPR映像を作ろう！～iPadで作る映画製作から～」211名 「人が集まるオンラインのノウハウ」29名	多様なテーマを設定し、座学だけではなくワークも豊富な内容を提供し、実践的な内容としたが、その後、そこで得た学びがどのように団体の活動に活かされているのか効果が上がっていない。	団体として連続して受講してもらい、件数等も増加しながら、団体の基盤強化に成果を出してもらった。			計画通りに進んでいる	全12回246名が参加 前年度の平均点89.8点 1「NPOが目ざすリーダーの育成」これからの20年～」32名 2「チームを活性化させる会議のコツ」32名 3「NPOのためのバックオフィス」19名 4「団体・組織運営スキルアップ」17名 5「団体・組織運営スキルアップ」16名 6「団体が成長するための助成金の活用」22名 7「伝えたい」を3カ月に分けるオンライン講座」33名 8「事例」をWebサイトで公開」26名 9「団体の基盤を整える情報セキュリティ講座」12名 10「共通と呼ぶクラウドファンディング」11名 11「共通と呼ぶクラウドファンディング」215名 12「自ら目で見つける」団体のロゴづくり講座」24名 13「フックアップが企業員獲得に繋がる」団体がエントリーのべ46名が参加、交流会を1回開催。	立ち上げ期の団体から多年度活動している団体まで、団体の状況に沿った受講ができるよう、同じテーマを初級中級編等複数回の講座を複数回受講の講座を進め、団体の成長を促す。フックアップ、登録団体支援を行う。			計画通りに進んでいる	〇全11回開催。合計213名。専門講座全体での平均点は82.9点との評価だった。 〇「フックアップセミナー」の開催。 〇コロナ禍による第788回以外開催は、すべてオンライン(Zoom)で開催した。Zoomに慣れていない人に対しては、Zoomを使った講座を受講方法を事前希望者全員がオンラインで受講できるように配慮した。 〇受講料受取りのため、オンライン決済(クレジットカード、コンビニ、銀行振込)も導入し対応した。 〇社会情勢を加味し、オンライン	引き続き、団体の成長状況に沿った受講ができるよう、同一テーマでの基礎編応用編など段階的な内容設定をし、団体の成長をサポートしていく。 コロナ禍の状況により、オンラインと会場開催を併用し開催する。フックアップセミナーを継続し、登録団体の支援を行う。			計画通りに進んでいる	全12回開催。受講者延べ人数は208名。専門講座全体の平均点は81点の評価だった。 オンライン開催のみ、会場開催のみ、オンラインと会場のハイブリット開催とコロナ禍の状況により、受講者の安心安全を考慮し柔軟な開催対応を行った。 個人ワークやグループワークを行い、段階的に理解が深まる実践的な講座を提供した。	B:計画通り達成することができた	・基本編・応用編を設定し、団体の成長に添った内容を提供した。 ・コロナ禍で対面での受講が難しくなった際、速やかにオンライン(Zoom)での受講体制を整え、講座前にZoomの使い方レクチャーを実施し、団体のオンライン支援も行った。 ・コロナ前は平均20～21名、コロナ後は17～19名が講座を受講し、毎年80点以上の評価を得た。	・市民活動団体の継続的な活動体制を支援する講座や、組織基盤を強化する講座を引き続き、実施していく。 ・他団体等と協力・連携し、課題を解決していくためのきっかけとなるような講座も実施し、協働に取り組む団体の後押しをしていく。	
目標(4)大学・学生との協働の推進																													
7	大学・学生への市民協働に係る情報提供及び相談窓口の充実	協働推進課	全課	大学・学生と、更に効果的な協働事業を実施するため、市の市民協働に向けた取組に係る情報や、市内における協働の機会等に関する情報を積極的に提供します。また、市との協働事業を実施するため、相談・調整しやすい環境を整えます。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	連携体制を構築している東京農工大学、東京外国語大学と協働事業について情報共有を行った。	引き続き、相談・調整しやすい環境を整えるとともに市と大学、大学同士のより一層の連携推進のため新たな連携体制について検討する。			計画通りに進んでいる	連携体制を構築している東京農工大学、東京外国語大学と協働事業について情報共有を行った。	引き続き、相談・調整しやすい環境を整えるとともに市と大学、大学同士のより一層の連携推進のため新たな連携体制について検討する。			計画通りに進んでいる	連携体制を構築している東京農工大学、東京外国語大学と協働事業について情報共有を行った。	引き続き、相談・調整しやすい環境を整えるとともに市と大学、大学同士のより一層の連携推進のため新たな連携体制について検討する。			計画通りに進んでいる	連携体制を構築している東京農工大学、東京外国語大学と協働事業について情報共有を行った。	B:計画通り達成することができた	各大学とは、毎年10件前後の連携事業が継続的に行われている。また、明星中学校・高等学校とは、令和3年度に7件の連携事業を実施した。さらに、職員から寄せられる大学等との連携希望相談も年々増えてきており、大学等との連携に対して職員の意識が向上している。	引き続き、相談・調整しやすい環境を整えるとともに市と大学等との連携がより一層充実するよう努める。		
目標(5)企業との協働の推進																													
8	企業に対する市民協働に関する情報の積極的な提供	産業振興課	協働推進課	企業に対して、市が推進する市民協働に関する情報を、市民活動センターや商工会議所等を通じ、積極的に提供します。また、市との協働事業を実施するため、相談・調整しやすい環境を整えます。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	工業技術情報センターを中心に、情報提供を実施した。	工業技術情報センターを中心に、情報提供の実施を継続する。			計画通りに進んでいる	工業技術情報センターを中心に、情報提供を実施した。	継続して情報提供に努める。			計画通りに進んでいる	工業技術情報センターを中心に、情報提供を実施した。	継続して情報提供に努める。			計画通りに進んでいる	工業技術情報センターを中心に、情報提供を実施した。	B:計画通り達成することができた	工業技術情報センターを中心に、窓口にてチラシを渡すなど情報提供を実施した。	引き続き、企業に対して、市が推進する市民協働に関する情報を、市民活動センターや商工会議所等を通じ、積極的に提供していく。		

府中市市民協働推進行動計画(平成30年度～令和3年度) 進行管理シート

No	推進方策・目標・施策	主管課	関係課	事業内容	計画										進捗状況																	
					R1	R2	R3	H30					R1					R2					R3					4年間(H30～R3)の総括				
								進捗状況	実績	課題	次年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R2年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R3年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	備考	進捗状況	実績	備考	評価	評価の根拠	R4以降継続していく取組や将来的な考え			
目標(2)既存公共施設の活用方策の検討																																
19	協働の推進のための場としての既存公共施設に係る活用方策の検討	建築施設課	各公共施設所管課	公共施設マネジメントの考え方に基づき、既存公共施設の在り方や機能の見直しに当たっては、市民協働機能も兼ねた市民ニーズを捉えた活用ができるよう、各施設所管課と検討を進めます。	継続実施	継続実施	検討結果とりまとめ	計画通りに進んでいる	第2次府中市公共施設マネジメント推進プランで定める施設取組の進捗状況の把握と取組の推進を図った。	既存公共施設について、老朽化の進行状況や市の財政状況も踏まえて、協働の推進等の新たな市民ニーズを把握し、対応する必要がある。	第2次府中市公共施設マネジメント推進プランに基づき、着実に取組が推進されるよう、適切な進捗管理を行う。					計画通りに進んでいる	第2次府中市公共施設マネジメント推進プランで定める各施設取組の進捗状況の把握と取組の推進を図った。	第2次府中市公共施設マネジメント推進プランに基づき、各施設における取組の適切な進捗管理を行う。また、令和3年度末で第2次推進プランの計画期間が満了するため、新たなプランの策定に向けて検討を行う。							計画通りに進んでいる	第2次府中市公共施設マネジメント推進プランで定める各施設取組の進捗状況の把握と取組の推進を図った。また、引き続き第2次推進プランの計画期間満了に伴う次期プランの策定に向けて検討を行う。	第2次府中市公共施設マネジメント推進プランの最終年度として4年間の取組の総括を行い、次期プランにつなげた。また、次期推進プランである第3次推進プランは、オープンハウス等を実施し、市民意見を聴きながら策定した。	協働の推進のための場としての既存公共施設に係る活用方策の検討は、第2次推進プランに基づき、各施設取組の中で共に検討し、進捗管理を行った。令和3年度は、それらの4年間の取組結果を取りまとめ、次期推進プランである第3次推進プランを策定した。	協働の推進のための場としての既存公共施設に係る活用方策の検討は、第3次推進プランにおいても引き続き行っていく。			
目標(3)新庁舎における協働を支える場の整備																																
20	新庁舎における協働を支える場の整備	新庁舎建設推進室	協働推進課	府中市庁舎建設基本計画の考え方を踏まえながら、新庁舎建設の設計において計画した、市民との協働を支える場を整備します。	継続検討	継続検討	継続検討	計画通りに進んでいる	広報特別号の発行により、「市民協働ラウンジ」の内容を周知した。	「はなれ」完成時期を踏まえ、市民協働ラウンジの具体的な運用方法について定めていく必要がある。	市民協働のあり方等の動向に注視していく。	令和元年5月に行い、新庁舎建設工事の着工時期を令和3年5月とし、しゅん工を令和8年11月に予定している。	計画通りに進んでいる	府中駅北第2庁舎へ先行移転した市民協働推進部において、新庁舎で想定しているオフィスレイアウト及び備品の取組を実施を行った。	市民協働ラウンジの備品の選定を進めていくうえで、試行実施の結果を反映するとともに、市民協働のあり方等の動向に注視しながら、具体的な運用方法について定めていく必要がある。									計画通りに進んでいる	新庁舎建設施工者選定委員会を設置し、新庁舎の建設工事を行う施工者の選定を行い、新庁舎建設工事請負契約を締結した。	令和8年度の「はなれ」供用開始に向け、着実に工事を進めるとともに、市民協働ラウンジの運用方法について検討を行う	新庁舎建設工事の備品及び運用については、令和8年度の「はなれ」供用開始に向け、協働共創推進課と協議、検討を行っている。	B:計画通り達成することができた	新庁舎建設工事は予定通り令和3年5月に着工した。備品については、市民協働推進部における試行実施の結果を反映しながら検討を進めている。	令和8年度の「はなれ」供用開始に向け、着実に工事を進めるとともに、市民協働ラウンジの運用方法及び備品について検討を行う		
推進方策6 市民自身が市民の活動を支える環境づくり																																
目標(1)市民が市民の活動を資金面で支援する仕組みの検討																																
21	寄附をしやすい環境の整備	政策課	全課	市が推進する市民協働の取組に賛同いただき、資金面で支援いただける方からの善意を汲み取りやすくなるため、寄附に係る窓口の一本化や手続の簡素化を図り、寄附をしやすい環境づくりに取り組めます。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	ふるさと納税を通じて本市の魅力PRするため、市内事業者向けにふるさと納税の返礼品掲載に関する案内を広報やホームページを活用して実施し、返礼品の拡充を図った。	寄附金額を一定以上確保し、定期的な返礼品のPRを行うため、市ユニフォームが必要となるため、新規の返礼品の調達や府中市をPRできる特産品の開発など対応しない。	市から市内企業に積極的な声かけを行うとともに、説明会等を実施し、返礼品の拡充に努める。					計画通りに進んでいる	ふるさと納税を通じて本市の魅力PRするため、市内事業者向けにふるさと納税の返礼品掲載に関する案内を広報やホームページを活用して実施し、返礼品の拡充を図った。	新規返礼品の開発や府中市をPRできる特産品の開発等に対応するため、市から市内企業に積極的な声かけを行い、返礼品の拡充に努める。また、市への寄附を通して、新型コロナウイルス感染症の影響で困難な状況にある方を支援できるよう、感染症対策のための寄附金を募集する。							計画通りに進んでいる	ふるさと納税を通じて本市の魅力PRするため、市内事業者向けにふるさと納税の返礼品掲載に関する案内を広報やホームページを活用して実施し、返礼品の拡充を図った。また、さらなる本市の魅力発信を目的に、寄附受付に係るポータルサイトの追加を行った。さらに、クラウドファンディング型のふるさと納税を実施し、目標金額を上回る寄附金をいただき、「ラグビーのまち府中」の象徴となるモニュメントを京王線府中駅周辺に設置した。	ふるさと納税を通じて本市の魅力PRするため、市内事業者向けにふるさと納税の返礼品掲載に関する案内を広報やホームページを活用して実施し、返礼品の拡充を図った。また、さらなる本市の魅力発信を目的に、寄附受付に係るポータルサイトの追加を行った。	4年間を通じて年間寄附額は毎年増額している。平成30年度と令和3年度の寄附額を比べると3億7千万円以上増額することができた。ポータルサイトの追加などで寄附しやすくなる環境整備を行ったことから成果が出たものとする。	寄附者の選択肢が増えるよう、市内業者に協力を仰ぐなど、幅広く魅力的な返礼品を用意する。また、寄附受付に係るポータルサイトの追加や、広告を掲出する環境づくりを検討する。			
目標(2)コミュニティビジネス実施団体の育成及び支援																																
22	コミュニティビジネス実施団体の育成及び支援	協働推進課		コミュニティビジネスを実施する市民活動団体や企業等の育成及び支援に取り組めます。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	SB/CB個別相談、コミュニティビジネス入門講座(3クール)の開催を通じて、SB/CBの起業を促した。起業支援コーナーの活用促進に注ぎ、利用者の交流会を実施するなど、ビジネスチャンス獲得のきっかけの場を提供した。	SB/CBの起業家育成のための、地域内の他機関との連携の場ができていない。起業支援スペースのキャパシティが少ない。	地域内の金融機関、商工会議所・経済観光課との連携体制づくり。テーマを特化したSB/CB起業に関する連続講座の検討。					計画通りに進んでいる	個別相談の開催、起業支援コーナーの活用促進、「ソーシャルビジネスツアー」の開催、たましん等他機関と連携したセミナーの開催などに取り組んだ。	個別相談の利用をよりしやすくするために、たましんの月1回の対応以外にも柔軟に対応できるように、アドバイザーの確保についてもマッチングできる仕組みを作った。起業支援コーナーの本業の目的と減利用状況の整合性を取るため、R2下期より「ソーシャルビジネスラボ」として目的を明確にアピールする方針を固めた。							計画通りに進んでいる	個別相談アドバイザー23名に登録していただき、相談者のニーズに合わせたマッチングをしやすい体制を整えた。合同個別相談会を開催した。NPOカイダス動画を東京府庁舎で放映し、ソーシャルビジネスラボにメンバーを配置した。	NPO・ソーシャルビジネス個別相談アドバイザーに関するパンフレットを作成し、相談利用を促進した。また、ソーシャルビジネスラボにメンバーを配置し、相談を受けやすい体制を整備した。	B:計画通り達成することができた	ソーシャルビジネスの立ち上げ件数の累計が目標値3件に対し17件という結果となり計画を上回って達成した。理由としては、ソーシャルビジネスに関する取組だけではなく、市民活動入門講座や各種イベントなどを通じて繋がった市民への継続的なフォローアップを行うことで、徐々に事業の立ち上げに繋がっていると考えられる。	引き続き、ソーシャルビジネスラボを活用して事業の立ち上げ支援を行っていく。また、6階エスカレーター横のスペースを青少年・ワーキングスペースとして、起業準備軍との接点創出を図る。		
推進方策7 協働事業提案制度の充実																																
目標(1)協働事業提案制度の充実																																
23	市民提案型協働事業提案制度の充実	協働推進課	全課	市民が自由な発想に基づき、協働事業の実施を市に対して提案できる制度について、複数年度で実施できるような検討し、充実を図ります。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	平成31年度提案募集(平成30年度実施)から複数年度での提案が可能となるよう制度の見直しを行った。また、市民提案型市民活動支援事業助成金や民間の助成金につなげるなど、より一層効果的・効率的な事業となるよう事前相談業務のみ指定管理者に移行した。【平成30年度提案事業数】5事業【平成30年度実施事業数】3事業	平成31年度提案募集(平成30年度実施)から複数年度での提案が可能となったことから、より一層制度の周知と行政理解を促す必要がある。また、事前相談業務を指定管理者に移行したことから、指定管理者の制度への十分な理解が必要である。	庁内へのより一層の制度周知を図るため、市民協働推進員研修や管理監督職対象研修で周知を行う。					計画通りに進んでいる	【令和元年度提案事業数】3事業【令和元年度実施事業数】5事業	庁内へのより一層の制度周知を図るため、市民協働推進員研修や管理監督職対象研修で周知を行う。							計画通りに進んでいる	【令和2年度提案事業数】2事業【令和2年度実施事業数】2事業	応募の様式を見直すとともに、制度への庁内理解が不十分であるため職員研修等を行う。	【令和3年度提案事業数】1事業【令和3年度実施事業数】2事業	B:計画通り達成することができた	平成31年度提案募集(平成30年度実施)から複数年度での提案が可能となり、制度の充実を図ることができた。	より活用しやすく、地域の課題解決につながる事業の提案がなされるよう、制度の仕組みを見直す。	

No	推進方策・目標・施策	主管課	関係課	事業内容	計画										進捗状況														
					R1			R2			H30				R1			R2			R3				4年間(H30～R3)の総括				
					進捗状況	実績	課題	次年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R2年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	R3年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	備考	進捗状況	実績	備考	評価	評価の根拠	R4以降継続していく取組や将来的な考え			
24	行政提案型協働事業提案制度の充実	協働推進課	全課	市が定めた地域課題に係るテーマに基づき、協働事業の実施を市に対して提案できる制度について、より活用しやすい制度となるよう検討し、充実を図ります。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	募集時期の見直しを行うとともに協働可能性調査において行政提案型協働事業の活用を呼び掛けるなど、提案数増加のための改善を行った。【平成30年度提案事業数】1事業【平成30年度実施事業数】1事業	市内からのテーマ応募が減少傾向にある。	応募の回答様式を見直すとともにテーマ応募時に他市事例の紹介を行うなど、積極的に活用を促し、提案数増加のための改善を行った。【令和元年度提案事業数】1事業【令和元年度実施事業数】1事業			計画通りに進んでいる	応募の回答様式を見直すとともにテーマ応募時に他市事例の紹介を行うなど、積極的に活用を促し、提案数増加のための改善を行った。【令和2年度提案事業数】1事業【令和2年度実施事業数】1事業	市内からのテーマ応募が減少傾向にある。			計画通りに進んでいる	テーマ応募の回答様式を見直すとともにテーマ応募時に他市事例の紹介を行うなど、積極的に活用を促し、提案数増加のための改善を行った。【令和3年度提案事業数】2事業【令和3年度実施事業数】2事業			計画通りに進んでいる	テーマ応募の回答様式を見直すとともにテーマ応募時に他市事例の紹介を行うなど、積極的に活用を促し、提案数増加のための改善を行った。【令和3年度提案事業数】2事業【令和3年度実施事業数】2事業	B:計画通り達成することができた	各課に向けたテーマ募集方法の見直しや、事業の提案様式の見直しにより、より活用しやすい制度となるよう取り組んだ。	提案数、実施件数ともに例年1、2事業であることについては、引き続き課題であるため、引き続き課題である事業の提案がなされるよう、制度の仕組みを見直す。また、テーマ募集について市内に対する周知を強化する。		
25	様々な主体による協働事業の提案の仕組みの検討	協働推進課		各活動団体が、様々な主体との協働事業の実施を提案できる仕組みについて、検討し、整備します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	市民活動センターにおいて、魅力的な活動の発掘と、立ち上げまもない事業実施の経験がない団体の育成を目的に、「プラットフォーム」として事業企画運営を公募し、その実施に向けて伴走サポートを行った。	市民活動センターが「プラットフォーム」で中間支援組織として提案団体の伴走サポートしていく中で、様々な主体の新たなつながりが生まれている。そのような動向を踏まえて、市においても引き続き検討を行う。			計画通りに進んでいる	市民活動センターにおいて、魅力的な活動の発掘と、立ち上げまもない事業実施の経験がない団体の育成を目的に、「プラットフォーム」として事業企画運営を公募し、その実施に向けて伴走サポートを行った。	市民活動センターが「プラットフォーム」で中間支援組織として提案団体の伴走サポートしていく中で、様々な主体の新たなつながりが生まれている。そのような動向を踏まえて、市においても引き続き検討を行う。			計画通りに進んでいる	職員研修やその他事業において、市民や職員に対して、協働推進課が協働事業の提案先窓口となる旨を強くPRし、提案があった際は、協働相手とのマッチングや協働事業の伴走を行った。【「プラットフォーム」は助成金制度見直しによりR1にて終了し、R2より「エール」へ統合。】			計画通りに進んでいる	職員研修やその他事業において、市民や職員に対して、協働推進課が協働事業の提案先窓口となる旨を強くPRし、提案があった際は、協働相手とのマッチングや協働事業の伴走を行った。	B:計画通り達成することができた	協働推進課が協働事業の提案先窓口となる旨を市内にPRし、各課と企業・大学等の連携促進や市民活動センターを介した市民団体とのマッチング、伴走支援を行った。	引き続き、協働推進課が協働事業の提案先窓口となることについての周知を図るとともに、協働共創推進課のコーディネート機能の充実に努める。			
目標(2)市の事務事業に係る協働事業化の推進																													
26	市の事務事業に係る協働事業化の推進	協働推進課	全課	市の事務事業の協働の可能性を検討するため、引き続き協働可能性調査を実施します。また、調査結果を活用するとともに、事務事業評価制度や政策会議などを通じ、新たな協働事業の実施に係る提案を促進します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	調査項目の見直しを行い協働で実施していない事業について行政提案型協働事業の活用につなげられるよう、改善を図るとともに、調査方法についても見直しを行った。	協働で実施していない事業については「行政提案型協働事業」の制度を活用するよう呼び掛けているが、より主観が積極的に協働の可能性があることを見直しを行う必要がある。	引き続き、調査項目の見直しを行い協働可能性調査を通じて主管課がより積極的に新たな協働事業の実施に係る提案や職員提案などの業務改善に結びつけられるよう働きかけを行う。			計画通りに進んでいる	新たな協働事業の実施に係る提案を促進するため、職員研修や市内報にて「行政提案型協働事業」の周知を行うとともに、プラットフォームの活用や企業との連携に関する周知を行った。	市の事務事業の協働化の検討や、新たな協働事業の実施に係る提案を促進するため、引き続き「行政提案型協働事業」、プラットフォーム及び企業連携の活用について、周知を行う。			計画通りに進んでいる	新たな協働事業の実施に係る提案を促進するため、職員研修等にて「行政提案型協働事業」の周知を行うとともに、プラットフォームの活用や包括協定を締結している企業・大学等との連携に関する周知を行った。			計画通りに進んでいる	新たな協働事業の実施に係る提案を促進するため、「行政提案型協働事業」の周知を行うとともに、プラットフォームの活用や包括協定を締結している企業・大学等との連携に関する周知を行った。	B:計画通り達成することができた	新たな協働事業の実施に係る提案を促進するため、「行政提案型協働事業」の周知を行うとともに、プラットフォームの活用や包括協定を締結している企業・大学等との連携について、周知を行う。	引き続き、「行政提案型協働事業」や、プラットフォームの活用について、周知を行う。		
推進方策8 協働を推進するための組織的な仕組みづくり																													
目標(1)協働事業の相談・提案に係る受付とマッチングに関するルールの周知及び充実																													
27	協働事業の相談・提案に係る受付とマッチングに関するルールの周知	協働推進課		市民や各活動団体から、協働事業の実施等について相談や提案を受けられる場合や、協働事業の提案がなされた場合のマッチングの仕組みなどを示す市内のルールについて更なる周知を図ります。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	「提案型協働事業募集要領」の作成にあたり、問合せが多い質問をQ&Aとして掲載するなど、引き続き内容の充実を図った。また、市民活動センターと連携し、協働事業提案制度の周知のためのパンフレット「あなたのやりたいを応援するガイド」を作成した。	引き続き、問合せが多い質問のほか、市民活動センターと連携しながら制度周知を図る。			計画通りに進んでいる	「提案型協働事業募集要領」の作成にあたり、問合せが多い質問のQ&Aとして掲載するなど、引き続き内容の充実を図った。また、市民活動センターと連携し、協働事業提案制度の周知のためのパンフレット「あなたのやりたいを応援するガイド」を作成した。	引き続き、問合せが多い質問のほか、市民活動センターと連携しながら制度周知を図る。			計画通りに進んでいる	「提案型協働事業募集要領」の作成にあたり、問合せが多い質問のQ&Aとして掲載するなど、引き続き内容の充実を図った。			計画通りに進んでいる	「提案型協働事業募集要領」の作成にあたり、問合せが多い質問のQ&Aとして掲載するなど、引き続き内容の充実を図った。	B:計画通り達成することができた	引き続き、市民活動センターと連携しながら制度周知を図る。	引き続き、市民活動センターと連携しながら制度周知を図る。			
目標(2)協働の推進に資する体制づくり																													
28	市民協働推進委員会の設置	協働推進課		協働事業の進捗状況等について、連絡調整を行うため、協働事業を実施する関係部署において構成する市民協働推進委員会を設置するとともに、更なる活用を図ります。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	引き続き市民協働の推進に係る各種事業の実施結果の報告や、意見交換等を通じて、連絡調整を行うとともに、協働事業評価対象事業の抽出を行った。【開催回数】3回	各課において協働を推進できるような働き掛けを行うため、より意見が得られるよう検討を行う。	継続して当該委員会を設置し、関係部署との連絡調整を行っている。			計画通りに進んでいる	引き続き市民協働の推進に係る各種事業の実施結果の報告や、意見交換等を通じて、連絡調整を行うとともに、協働事業評価対象事業の抽出を行った。【開催回数】1回	継続して当該委員会を設置し、関係部署との連絡調整を行っている。			計画通りに進んでいる	市民協働の推進に係る各種事業の実施結果の報告や、意見交換等を通じて、連絡調整を行った。【開催回数】1回	また、コロナ課題解決型ソーシャルビジネス協働事業助成金の審査を実施した。【審査開催回数】9回			計画通りに進んでいる	市民協働の推進に係る各種事業の実施結果の報告や、意見交換等を通じて、連絡調整を行った。【開催回数】1回	また、コロナ課題解決型ソーシャルビジネス協働事業助成金の審査を実施した。【審査開催回数】12回	B:計画通り達成することができた	市民協働の推進に係る各種事業の実施結果の報告や、意見交換を行うとともに、「提案型協働事業」の選考に係るオブザーバーや「Share FUCHU Project」や「コロナ課題解決型ソーシャルビジネス協働事業助成金」の審査を実施した。	引き続き、市民協働の推進に係る各種事業の実施結果の報告や、意見交換等を通じて、連絡調整を行う。
市民協働推進委員会の設置																													
29	市民協働推進会議の設置	協働推進課		協働の推進に係る取組の進捗状況等について評価・検証を行うとともに、基本方針や市民協働推進行動計画の見直し、条例制定等について調査・研究を行うため、市民や学識経験者等で構成する市民協働推進会議を設置します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	協働事業の評価、提案型協働事業の選定、協働の推進に関する条例の要件を含めた検討を行った。また評価項目や評価方法の見直しを行った。【開催回数】5回	より効果的・効率的にヒアリングが実施できるよう検討する必要がある。	ヒアリング及び評価を効果的に行うことができるよう、実施方法の見直しを検討する。			計画通りに進んでいる	協働事業の評価、提案型協働事業の選定を行った。また評価項目や評価方法の見直しを行った。【開催回数】3回	ヒアリング及び評価を効果的に行うことができるよう、実施方法の見直しを検討する。			計画通りに進んでいる	協働事業の評価、提案型協働事業の選定を行った。【開催回数】1回	評価を効果的に行うことができるよう、実施方法の見直しを検討する。			計画通りに進んでいる	協働事業の評価、提案型協働事業の選定を行った。【開催回数】4回	B:計画通り達成することができた	協働の推進に係る取組の進捗状況等について評価・検証を行うとともに、府中市市民協働の推進に関する基本方針の見直しを行った。	引き続き、評価を効果的に行うことができるよう、実施方法を検討する。	

No	推進方策・目標・施策	主管課	関係課	事業内容	計画										進捗状況												
					R1					R2					R3					4年間(H30～R3)の総括							
					進捗状況	実績	課題	次年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	課題	R2年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	課題	R3年度へ向けた取組	備考	進捗状況	実績	備考	評価	評価の根拠	R4以降継続していく取組や将来的な考え		
目標(3)政策形成過程への参画のための公募委員制度の拡充																											
30	附属機関等に係る公募市民枠の拡充	政策課		市の施策の検討等を行う際に、広く市民の意見を聞くため、附属機関等を設置する際には、公募委員制度を積極的に採用するとともに、より市民が参画しやすいよう、制度を拡充します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいない	H30.4.1現在44.9%(前年比-1.4%)	専門的な知識、経験を有する者を委員とする場合や設置期間が長い機関については、改善が困難である。	公募委員が在籍する附属機関等の割合が増加するよう、関係課に働きかけを行っていく。			計画通りに進んでいない	H31.4.1現在45.1%(前年比+0.2%)	各附属機関等の委員選任に係る調整を適正に行い、公募委員が在籍していない機関等については積極的な採用がなされるよう関係課に働きかけていく。	専門的な知識、経験を有する者を含む場合や設置期間が長い機関については、改善が困難である。	計画通りに進んでいる	R2.4.1現在50.9%(前年比+5.8%)	各附属機関等の委員選任に係る調整を適正に行い、公募委員が在籍していない機関等については積極的な採用がなされるよう各所管課に働きかけていく。	専門的な知識、経験を有する者を含む場合や設置期間が長い機関については、改善が困難である。	計画通りに進んでいる	R3.4.1現在58.3%(前年比+7.4%)	B:計画通り達成することができた	公募委員が在籍している機関の割合について、4年間で13.4ポイント増加した。機関数の半数以上で登用できており、各所管課へ積極的な登用の働きかけを行ったことから成果が出たものと考えられる。	各附属機関等の委員選任に係る調整を適正に行い、公募委員が在籍していない機関については積極的な採用がなされるよう各所管課に働きかけていく。	
推進方策9 協働事業の評価・検証の仕組みの整備																											
目標(1)評価・検証の手法の検討・整備																											
31	評価結果等の共有及び改善に向けた取組の実施	協働推進課	全課	市民と市とが実施した協働事業について、市民と市それぞれの立場から、整備をきたした点・評価を行い、課題や改善点を共有するとともに、具体的な改善に取り組みます。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	評価結果の公表とあわせ、評価対象事業について後追調査を実施し、改善の取組の把握を行った。	引き続き、評価結果の公表とあわせ、評価対象事業について後追調査を実施し、改善の取組を把握する。			計画通りに進んでいる	協働事業等評価制度に基づき評価を実施し、評価結果を事業実施者に共有した。また、庁内報告するとともに、市ホームページにおいて公表した。	引き続き、評価結果の公表とあわせ、評価対象事業について後追調査を実施し、改善の取組を把握する。			計画通りに進んでいる	提案型協働事業について、評価シートを使用した自己評価及び相互評価を実施した。なお、コロナ禍のため、第三者による評価会は未開催。			計画通りに進んでいる	提案型協働事業について、評価シートを使用した自己評価及び相互評価を実施した。また、コロナ禍であったが、オンライン開催するなど、柔軟に対応することができた。	B:計画通り達成することができた	協働事業等評価制度に基づき評価を実施し、評価結果を事業実施者に共有できた。令和2年度はコロナ禍で報告会が中止となったが、令和3年度はオンライン開催するなど、柔軟に対応することができた。	引き続き、評価シートを使用した自己評価及び相互評価を実施し、協働事業の課題や改善点の共有を実施する。	
市民協働推進会議(仮称)の設置																											
推進方策10 協働の取組を効果的に進めるための行動計画の策定及び条例の整備																											
目標(1)市民協働推進行動計画の進行管理の実施																											
32	市民協働推進行動計画の見直し	協働推進課		市民協働を効果的に推進するため、社会経済情勢の変化等を踏まえ、市民協働推進行動計画の見直しを行います。		実施	実施	—						—		府中市市民協働の推進に関する基本方針の見直しを行ったうえで、市民協働推進行動計画を含めた進行管理方法を検討することに計画を変更し、第7次府中市総合計画と連動した進行管理ができるよう関係課と調整を行った。	府中市市民協働の推進に関する基本方針の改定に向けた準備を行う。					計画通りに進んでいる	府中市市民協働の推進に関する基本方針の見直しを行ったうえで、市民協働推進行動計画を含めた進行管理方法を検討することに計画を変更し、第7次府中市総合計画と連動した進行管理ができるよう関係課と調整を行った。	B:計画通り達成することができた	府中市市民協働の推進に関する基本方針の見直しを行ったうえで、市民協働推進行動計画の進行管理方法について、第7次府中市総合計画と連動した進行管理ができるよう関係課と調整を行った。	第7次府中市総合計画と連動した進行管理ができるよう関係課と調整し、進めていく。	
33	協働に関する事例等の調査・研究の実施	協働推進課		市民協働の効果的な推進に向けて、他自治体における先進的な協働事例等について、調査・研究を行います。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	他市との情報交換や研修等を通じ、先進的な協働事例等について、調査・研究を実施した。	継続して協働に関する事例等について、調査・研究を行う。			計画通りに進んでいる	他市との情報交換や研修等を通じ、先進的な協働事例等について、調査・研究を実施した。	継続して協働に関する事例等について、調査・研究を行う。			計画通りに進んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響により、書面での情報交換を行い、先進的な協働事例等について、調査・研究を実施した。	継続して協働に関する事例等について、調査・研究を行う。			計画通りに進んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響により、書面での情報交換を行い、先進的な協働事例等について、調査・研究を実施した。	B:計画通り達成することができた	日頃から他市の協働事例等について積極的に情報収集を行い、定期的にも他市との情報交換会へ出席するなど、調査・研究を行った。	他の自治体だけでなく、各団体、企業や大学など様々な主体の取組に対してもアンテナを張り、積極的に調査・研究を行っていく。
34	協働に関する各種アンケート調査の実施	協働推進課		市民協働の進捗状況や成果等を把握するとともに、効果的な推進方策を検討し、市民協働推進行動計画の見直し等に反映するため、適宜、市民や各活動団体、職員等に対し、アンケート調査を実施します。	継続実施	継続実施	継続実施	計画通りに進んでいる	「市政世論調査」や、庁内の「協働事業に関する実績調査」、「職員意識調査」等、各種調査を実施した。	回答しやすいよう、適宜調査票の見直しを行うとともに、継続して各種アンケート調査を実施する。			計画通りに進んでいる	「市政世論調査」や、庁内の「協働事業に関する実績調査」、「職員意識調査」等、各種調査を実施した。	回答しやすいよう、適宜調査票の見直しを行うとともに、継続して各種アンケート調査を実施する。			計画通りに進んでいる	「市政世論調査」や、庁内の「協働事業に関する実績調査」、「職員意識調査」等、各種アンケート調査を実施する。	回答しやすいよう、適宜調査票の見直しを行うとともに、継続して各種アンケート調査を実施する。			計画通りに進んでいる	「市政世論調査」や、庁内の「協働事業に関する実績調査」、「職員意識調査」等、各種アンケート調査を実施する。	B:計画通り達成することができた	市民や職員に対する様々なアンケートを通じて、市民協働推進の進捗状況の把握や、各種施策を検討する際に参考とすることができた。	アンケート結果を市民協働推進のための施策に生かすことができるよう、アンケート項目の見直しや、アンケート結果の分析にも力を入れていく。
市民協働推進会議の設置																											
目標(2)市民協働の推進に関する条例の制定に係る調査・研究の実施																											
35	市民協働の推進に関する条例の制定に係る調査・研究の実施	協働推進課		条例を制定している先行事例について調査を行うとともに、その要否を含め、条例制定の課題等について研究します。	検討結果に対応	検討結果に対応	検討結果に対応	計画通りに進んでいる	市民協働推進会議において、検討を行い、後期基本計画における各施策の取組の協働による成果や他市事例に注視していく。	後期基本計画における各施策の取組の協働による成果や他市事例に注視していく。			計画通りに進んでいる	市民協働推進会議において、検討を行い、後期基本計画における各施策の取組の協働による成果や他市事例に注視していく。	後期基本計画における各施策の取組の協働による成果や他市事例に注視していく。			計画通りに進んでいる	「府中市市民協働の推進に関する基本方針」の見直しに向け、検討・準備を重ねた。	基本方針の見直しを行う。同時に、引き続き、後期基本計画における各施策の取組の協働による成果や他市事例に注視していく。			計画通りに進んでいる	平成26年5月に策定した「府中市市民協働の推進に関する基本方針」を見直し、誰もが市民協働を身近に感じ、協働の手助けに参画する府中市の実現を目指し、協働関係の基本的事項を定めるため、新たに「府中市市民協働の推進に関する基本方針」を策定した。	B:計画通り達成することができた	条例の制定については、後期基本計画における各施策の取組の協働による成果をふまえ、改めて判断することとした。また、新たに「府中市市民協働の推進に関する基本方針」を策定した。	市民協働推進会議において検討を行い、後期基本計画における各施策の取組の協働による成果をふまえ、改めて判断することとしていたため、条例の制定について再度検討していく。